



# IPNU キャンパスネット

2010.3 MAR. Vol.17

## 開学十周年記念式典の開催

十周年事業検討委員長 西村 真実子



本学は平成12(2000)年に開学し、来年度(2010年度)で十周年を迎えます。十周年を迎えるにあたり、2009年度には十周年記念事業検討委員会が立ち上げられ、記念事業として、記念式典・記念講演・記念シンポジウムの開催、記念誌の発刊、「十年のあゆみ」の年譜の作成などを行うことになりました。

本学の沿革をたどると、平成4(1992)年に看護師等高等教育養成施設設置検討委員会報告書が公表され、平成7(1995)年には厚生部衛生総務課内に看護大学設立準備室が設置されています。

準備室における5年間と開学後の10年を振り返ると、金川克子初代学長、木村賛現学長をはじめ、さまざまな方々の信念と英知、努力を感じます。十周年を迎えるにあたり、これまでの歩みをまとめ、これからの本学の新たな歩みを共に考える機会になることを願って、2010年5月30日(日)13時から記念事業を計画しました。

記念講演としては、近大姫路大学学長の南裕子先生に「これからの看護の課題と役割」と題してご講演いただきます。ティタイムをはさみ、その後「石川県立看護大学の未来像：私たちがめざすもの」をテーマとした記念シンポジウムを行います。シンポジストは、本学初代学長で、現神戸市立看護大学学長の金川克子先生、本学を卒業し、本学大学院博士前期課程修了生でもある寺井孝弘さん(金沢大学医学部附属病院看護師)、本学を卒業し、現在は本学大学院博士前期課程で学んでいる小坂真弓さん、本学の丸岡直子教授の4名です。地域社会における交流の減少、経済の持続的発展が懸念される状態、労働環境の変化など、近年の社会経済の変化や、少子高齢化、看護の役割の拡大などを鑑み、本学がどのような特色を持ち、どのようなことをめざして教育、研究、地域貢献に取り組んでいくのかについて、多くの方々と意見交換ができる場になれば幸いです。ティタイムでは、本学の10年を写真などで振り返る画像を流します。

卒業生・在学生および保護者の方々、お世話になった非常勤講師の方々や実習施設などの関連の皆様、これまでに着任された教職員の皆様、現在の教職員など、本学を支えてくださっている多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 目次

開学十周年記念式典の開催	1	海外出張教員からのトピックス	
大学の主な動き		アメリカ緩和ケア	5
平成21年度卒業式・学位授与式	2	ドイツでの調査研究	5
卒業生の言葉	2	パラグアイ現地調査	5
修了生の言葉	2	キャンパスライフ	
卒業研究発表会	3	第10回春大祭を終えて	6
修士論文発表会・博士論文発表会	3	サークル紹介	6
JICAタジキスタン研修	3	この1年を振り返って	7
CNS合格者の声	4	図書館案内	8
新任教職員紹介	4	地域ケア総合センターから	8
		卒業生の内定状況	8
		キャンパススケジュール 2010年度	8



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

大学 看護学部看護学科  
大学院 看護学研究科

〒929-1212 石川県かほく市中沼ツ7番1  
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319  
URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp/>  
E-mail [office@ishikawa-nu.ac.jp](mailto:office@ishikawa-nu.ac.jp)



# 大学の主な動き

## 平成21年度卒業式・学位授与式

木々の芽吹きに春の訪れを感じる佳き日となった3月13日、平成21年度卒業式・学位授与式が挙行されました。杉本副知事はじめ各界の来賓のご臨席を賜り、看護学部卒業生89名、看護学研究科博士前期課程修了生9名、後期課程修了生4名の計102名が本学を巣立つこととなりました。

学長は式辞の中で、ナイチンゲールが観察の結果をデータに基づいて示すことにより多くの功績を残したことを例に、事実を深く観察し、既存の説に囚われることなくデータに基づいて自分の力で考え行動し、新たな一步を踏み出すようにと前途を祝されました。在校生を代表して又村恵さんから卒業生・修了生への感謝の気持ちと先輩につづく決意が、卒業生総代の本田瑛子さんからは看護職者として医療・福祉の向上に貢献する決意が、また大学院修了生を代表して前期課程修了生の辻屋久美代さんから、看護学の発展に貢献し研究能力のさらなる向上をめざす決意が述べられました。

卒業生・修了生が歌った「栄光の架け橋」のように、多くの支えの中で歩いてきたことを想い出し、希望に満ちた空へ、そしてそれぞれの栄光の架け橋へとしなやかに進んでほしいと願っています。

学生部長 丸岡直子



## 卒業生の言葉



四年前、私は看護という未知の分野への強い興味を持って本学に入学しました。講義を通し、数多くの知識や情報が蓄積されていく中、看護というものの奥深さに戸惑いを覚え、不安がよぎることも多々ありました。しかし実習で出会った一人一人の患者さんと不器用ながらも向き合い、言葉を交わすなど関わらせて頂いた全てのことから、自分以外を案じ、心を寄せ合う暖かさを学ばせて頂きました。この貴重な体験は私のまわりの世界を格段に広げ様々なものの見方を一変してくれました。これから先、道に迷い立ち止まった時、きっと私の背中を押してくれるのは在学中の数々の思い出だと思います。今無事卒業を迎え、仲間達もそれぞれの道へと歩んでいます。

私は複雑な社会状況の中で心身の障害を抱えた子供たちを含め、明日を担う子供たちの健全な成長を応援するために進学を選びました。支えて下さった先生方、共に歩んでくれた仲間達への心よりの感謝をこめ、誇りをもち胸を張って卒業します。ありがとうございました。

4年 田村 矩子

## 修了生の言葉



学部4年間と博士前期課程コミュニティケア分野での2年間、本学に入学して6年の歳月が経とうとしています。事例検討会や研究の過程など様々な局面において、臨床経験がないためにイメージがつかないことが多く、悩むこともありましたが、今こうして修了に向かいここに居られることをとても幸せに思います。大学院での数々の講義や修士論文を通して、私なりに看護を見つめ、そして何度も看護の楽しさに触れることができました。それは、未熟な私を励まし支えて下さった皆様のおかげです。中間発表前に研究が看護にどう役立つか考えていた時や修士論文の提出前は、昼夜を問わず先生の指導を受け、院生室でPCのキーボードを叩きながら朝を迎えることもよくありました。辛い時は皆で励まし合い、嬉しい時は喜びを分かち合えたこの環境で、夢に向かい歩んできた道程は私にとって一生の宝です。この2年間を通して、目標に向かい諦めず最後まで信じて粘ることの大切さを深く学べたことはプラスの力になりました。これからは一人の社会人として、また看護職として地域へ貢献していけるよう成長していきたいと思っております。ありがとうございました。

修士2年 松本 彩香



私は2003年4月、日中笹川医学研究者奨学金にて石川県立看護大学で1年間の研修を受け、その後引き続き、2004年より大学院博士前期課程、2007年より博士後期課程に進学しました。7年にわたり本学で研鑽を積み、日本における看護の先進的な知識と技術、特に高齢者を対象としたコミュニティケアについて学びを深めることが出来たと思います。

また私は、石川県立看護大学の留学生第一号として、石川県下の人々と積極的に交流を図りたいと考え、中国語講座を開講させて頂きました。中国語講座では、中国語という言葉だけでなく、中国の文化についても広く伝えていきたいとの思いで取り組んできました。日本と中国、両国の歴史や文化の相異を理解しつつ、互いに尊重し合う豊かな国際交流が今後も継続されていくように、これからも私の周囲からその輪を広げていきたいと思っています。

卒業後は、日本で学んだ看護の専門性や知識・技術を中国の看護師に伝えていくと共に、本学研究員として、故郷吉林省の看護界との交流や共同研究などに活発に取り組んでいきたいと考えています。

博士3年 孫 皎



## 卒業研究発表会

本年1月6日に21年度の卒業研究発表会が行われました。5会場に分かれて計89名の学生が発表を行いました。今年度から若干発表時間を短くしましたが、これによってプログラムに余裕ができ、参加者が多くの発表を聞くことができるようになったと思います。本年度の発表会は4年生以外の学生の参加が多かったようで、昨年とは十分足りた抄録集が同じ部数印刷したのに今年は足りなくなっていました。抄録集の件に加え、一部の会場で機材にトラブルがあったようで、卒研部会としてこれらの点を反省しています。

## 修士論文発表会・博士論文発表会

本年2月18日に修士論文発表会、2月22日に博士論文発表会が開催され、本学大学院生がこれまでの研究成果を発表しました。本年度は修士9名、博士4名が発表を行い、両日とも3～4時間の長丁場となりました。厳正な審査の結果、修士課程、博士課程共に全員が合格となりました。本学の後期(博士)課程は、昨年度初の看護学博士2名が生まれたところですが、昨年に引き続き4名の博士が誕生したことは大変喜ばしいことです。

結果だけ見ると、全員合格ですが、審査の過程で厳しい指摘や、それに対応するための加筆・修正があり、決してすんなりと合格したわけではないと思われます。

学位が授与されるということは、それぞれの研究内容が一定の水準に達していると判断されたということですが、しかし研究に完成ということはありません。研究が進めばすすむほど、新たな問題が出てくるものです。博士論文は研究のゴールではなく一つの通過点であると考えなければなりません。大学院修了生の皆さんには今後とも研究を継続しさらに発展させて欲しいと思います。



## タジキスタン共和国国別研修を終えて

今年で5年目になる平成21年度の研修は、10月23日(金)から12月10日(木)まで行った。

第2フェーズの2年目となる今年は、看護師1名と助産師7名の計8名の女性を受け入れた。例年6名であったが、JICA北陸の説明では、参加希望者が多いため2名増やしたとのことだった。第2フェーズは、現場の最先端で住民と接する看護職に地域看護活動に直接役立つ知識・技術を学習できるプログラム構成となっている。

研修生の学習意欲は高く、ひとり一人が日常業務の改善に焦点を当てて具体的に考えて積極的に取り組んでいた。安全な水の確保も十分でない地域での母子保健活動を様々な工夫を重ねながら努力している彼女たちに、私たちが援助できることは何かを深く考えさせられた研修であった。



4年次生思春期健康論での交流

地域ケア総合センター長 佐々木 順子



## 念願のがん看護専門看護師合格を振り返って



私は北陸がんプロフェッショナル養成プログラムの一環である、がん看護事例検討会に平成20年から参加している。本会は約2ヶ月に1回、石川県立看護大学の一室で開催され、大学教員や大学院生、様々な病院の看護師が1回に15名前後参加している。

本会で参加者から様々な意見をもらえることは、自分自身の傾向に気づくきっかけや事例を新たな視点で捉えられ、看護実践の糧となっていると考える。

私は大学院修了後から石川県に来たので、がん看護専門看護師を目指していくうえで、サポート体制をどう得たらよいか悩んでいた。そうした中で、事例検討会やe-ランニングによる学習システムがあったことは、石川県に来てから3年かかったが、県内初のがん看護専門看護師認定につながったと実感している。

今後も事例検討会に参加して、自身の事例を検討してもらい、がん患者様やご家族にとってより良い看護を探求していきたい。さらに、専門・認定看護師を目指している方や、がん患者様に関わっている方々と交流して、サポートするような役割も担っていきたい。

看護師 我妻孝則

## 老人看護CNSとしての抱負



私は、平成19年に石川県立看護大学大学院の老年看護学講座で老人看護専門看護師教育課程を修了し、現在、公立能登総合病院で主任看護師として勤務しています。

対象の多くは高齢で慢性疾患を持つ患者です。高齢者を取り巻く課題には、二次的合併症の発症による入院の長期化や高齢者の独居、二人暮らしなど家族形態の変化、そして老々介護といった介護者の高齢化、高齢者の看取りのあり方や解決困難な事例への退院調整など多様化しています。こうした課題と向き合いながら、高齢者や家族の意思を尊重し、その人らしい生き方を支援していくことや、多職種と連携しながら組織的に関わり、地域・行政にケアをつないでいくことが老人看護CNSの役割だと考えています。

「CNSに相談してみよう…」とスタッフから意図的にCNSが活用され、ケアの中に組み込まれていけるよう、「全体を見渡す目」や「先を見通す力」を持ち、時代の変化や新しい情報に対応できるよう学ぶ姿勢を持ち続けたいと思っています。

看護師 関 利志子

## 新任教職員紹介



野村 潤 講師  
(英語担当)

2009年10月に、英語講師として看護大学に赴任してきました。出身はお隣の福井県なのですが、高校を卒業してから、神戸・名古屋・ホノルル・大阪などを転々として石川県にやってきました。

ホノルルには6年以上住み、ハワイ大学の大学院生として言語学を研究しました。言語学といってもみなさんピンとこないかもしれませんが、私の場合は、幼児の言語発達と、英語教育を研究しています。大人になってから外国語を学習するのは大変なのに、子どもは文法解説も単語テストもなしに、どうやって言語を習得するのだろうか？という問題意識を持って、2～3歳児のこぼれ言葉を録音・分析したり、大人の英語学習者に実験を行ったりしています。この他、方言・国際貢献・看護場面でのコミュニケーションなど、いろいろなことに興味があります。

赴任して初めての冬は、同じ雪国出身の私には問題ないはず……だったのですが、実際には授業中にずいぶん寒さを嗅いでしまいました。同時に、寒さも雪もものともしない看護大生のみなさんに感嘆するばかりでした。石川県と看護大学に関してはまだまだ「初心者」ですので、いろいろ教えてください。よろしくお願いします。



# 海外出張教員からのトピックス

## 北陸がんプロ養成プログラム アメリカ緩和ケア研修ツアーを企画・実施して

本年度は、北陸がんプロフェッショナル養成プログラムにおける新しい取り組みとして、「アメリカ緩和ケア研修ツアー」を企画した。2009年9月4日～10日の期間、ロサンゼルス郊外にあるSanta Barbara Hospice、City of Hope、UCLA（看護学部）を訪問し講義を受けたり施設の見学を行った。

参加者は、北陸3県のみならず東北地方からも参加希望者があり、大学教員、大学院生、臨床看護師など合計12名が参加することになった。参加者が互いに、地域でのがん医療や看護の取り組みや、取り組んでいる課題や研究に関することなど意見交換することもでき、アメリカの緩和医療を学ぶのみならず現在参加者がかかえる緩和医療について語り合う場ともなった。

なお、本企画の計画・実施にあたり、ホロスユニヴァースの高橋則子様には、多大なご尽力を頂きましたことを心よりお礼申し上げます。この場を借りて、お礼申し上げたいと思います。

教授 牧野 智恵



Santa Barbara Hospiceの前でPamela J. Malloy先生と参加者

## ドイツ語圏における死生観研究における予備調査Ⅱ

平成21年10月5日から15日の期間、調査研究のため、ドイツ連邦共和国のライプツヒ大学東アジア研究所、カッセル埋葬文化博物館、ハイデルベルク大学神学部実践神学ゼミナールを訪問しました。

今回の目的は死生観とケアの研究、特に日独における死生観とケアの比較文化的研究の予備調査です。調査・視察の具体的対象は①悲哀に関する哲学的理解、②ドイツにおける埋葬文化、③ドイツ語圏における医療的な魂のケア (Seelsorge, spiritual care) の現状の3点です。

特に成果があったのは、ハイデルベルク大学神学部の実践神学ゼミナール図書館での医療的な魂のケア、特に悲哀に関するケアの書籍調査です。ドイツの大学神学部や神学校では魂のケアの学びは基本的であり、卒業生には医療スタッフとして病院で魂のケアに携わっている者も少なくありません。訪問が丁度大学の学期始めに重なったので、大学の本屋で神学生たちが使用している魂のケア関係の教科書を買うこともできました。将来的には、比較的読みやすい書籍を日本語訳したいと考えています。

教授 浅見 洋



ハイデルベルク大学図書館

## JICAパラグアイ日系研修 フォローアップ調査

パラグアイは、人口約600万人、南米に位置する内陸国です。パラグアイと日本の歴史は、1936年の日本人による農業開拓を目的としたパラグアイへの移住に始まり、現在、パラグアイの日系人口は約7000人、そのうち高齢人口は約13%と高齢化が進んでいます。そうした中で、パラグアイの日系社会では高齢者福祉への取り組みの必要性が高まり、2007年から、本学ではJICAパラグアイ日系研修「高齢者福祉におけるデイケアサービス(デイケアと介護予防)」として、これまでに10名の研修生を受け入れてきました。

2010年2月10日～23日まで、高齢者福祉の現状、研修生の活動状況を把握するためにJICAフォローアップ調査が実施され、羽咋市社会福祉協議会担当者、JICA北陸担当者とともに現地を訪問しました。各地区での研修生および日本人会との意見交換、関係施設の見学をとおして、研修生を中心にデイケア、訪問活動等が行われており、課題はありますが、一つ一つ研修効果を実感いたしました。



アスンシオン空港にて 現地JICAスタッフと

各地区での研修生および日本人会との意見交換、関係施設の見学をとおして、研修生を中心にデイケア、訪問活動等が行われており、課題はありますが、一つ一つ研修効果を実感いたしました。

助教 松平 裕佳



# キャンパスライフ

## 第10回看大祭を終えて

第10回の看大祭は「みんなでEnjoy」「高松と看護を若者に知ってもらおう」というコンセプトのもと「No Love, No Nursing～愛は人を救う～」というスローガンを掲げ、多くの人にとってたくさんの愛のある看大祭になってほしいと願っていました。本学大学祭の特徴でもある講演会に、今年は、保健師としてタンザニアで活動中にHIVに



感染し、現在も保健師を続けながらHIVとも闘っている北山翔子さんと、昨年に引き続いて赤須太郎さんをお招きしました。授業の中でもHIVや乳がんについての勉強はしていましたが、患者さんや家族の気持ち、また啓発していくことの大切さを教わりました。来場して下さった方々も予防や健康の大切さや病気への理解の大切さを感じてもらえたのではないかと思います。その他の企画として、新たにAED講習会を行ったり、地元企業に出店していただきました。本当に多くの方々の協力なくして大学祭を行う事はできないと実感しました。また来年も先輩方からの伝統を受け継ぎつつ、新しいものを取り入れ頑張っしてほしいと思います。

実行委員長 山田 綾香

## サークル活動紹介

石川県立看護大学の茶道サークルでは、大学創立当初からある伝統的なサークルです。しかし、茶道経験者がほとんどいません。大半が茶道経験のない初心者ですが、お茶の先生からは一から丁寧に教えていただきます。大学祭などでお茶会を行うのですが、先生方や地域の方々には「とてもきれいなお手前」と褒められるほど上達しました。

今年度は入学式にお茶会をし、沢山の新生とその保護者の方々にお茶を楽しんでいただくことができました。そのかいあって、4名の新生がサークルに入ってくれました。

大学祭では、昨年度の反省点を生かし、皆で話し合いを進めました。お茶の先生方のアドバイスも取り入れ、今年度の大学祭は一味違った素晴らしいお茶会になったのではないのでしょうか。来年度は1年生が中心となりよりよいお茶会を開いてほしいと思っています。

新年には初釜を行い、学長先生をはじめ沢山の先生方に参加していただきました。今年度は来ていただいた方に楽しんでいただけるよう、寅年にちなんで寅の着ぐるみを着たり、お茶の飲み方の書いたチラシを作成したりとさまざまな工夫をこらしました。

来年度もより一層努力してきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。





## この1年を振り返って



基礎看護学実習Ⅰ  
1年 荒邦 有紀

基礎看護学実習Ⅰは、特別養護老人施設での実習でした。フィールド実習でも高齢者施設に出向きましたが、また違った緊張感がありました。今まで学んだコミュニケーションをうまく使えるだろうか、相手の状態を見て気持ちを汲み取れるのだろうかなど不安がありました。実習では、歩行訓練を嫌がっている利用者に対して、どうしても参加してもらおうと無理にすすめてしまった結果、利用者を困惑させてしまう場面がありました。その場面をプロセスレコードで振り返ると、自分が利用者の表情は見ているものの、その時の気持ちを考えた会話ができていないことに気づきました。

また、嬉しい体験もありました。あまり表情に変化のみられない対象者が、学生に折り紙を折ってくださり、嬉しい気持ちを伝えると利用者笑顔がみられました。この実習では、言葉だけでなく相手の表情やしぐさを意識的に観察できたのではないかと思います。

この実習を通して学んだことを今後に活かし、見つけた課題に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



基礎看護学実習Ⅱ  
2年 奥村 麻由

基礎看護学実習Ⅱは私にとって初めての病棟実習でした。実習に入る前までの、講義や基礎看護学実習Ⅰなどで、“その人その人に合わせた看護”を提供することが大切であると学び、そのことを心がけていくつもりで実習に臨みました。しかし、実際に実習に入ると“その人その人に合わせた看護”、つまり個別性のある看護について、私は分かっていたのではなく分かったつもりでいたのだと気付かされました。個別性のある看護を提供するためには、相手の立場に立って考えることが絶対不可欠です。私は患者さんとの関わりを通して、相手の立場に立つということは口では簡単に言えても、実行することは非常に難しく、そんなに簡単にできるものではないと実感されました。そこから、患者さんの立場に立ったつもりになる未熟さや怖さがわかり、これは私にとって今後につながる大きな収穫であったと思います。私は基礎看護学実習Ⅱで、学校では学びきれいなことを多く学ばせて頂きました。このような貴重な学びを得ることができたのも、先生方、病棟の看護師の方々、そして患者さんのおかげです。本当にありがとうございました。



小児看護学実習Ⅰ  
3年 長瀬阿佑美

私は4日間、保育園での実習を行いました。成長発達の著しい、元気いっぱいの子供たちの中で楽しく実習を行うことができました。私は、2歳児と4歳児のクラスを受け持たせていただきました。それぞれのクラスで保健指導の実施や日々のかかわりを通して園児たちの生活の様子を見てみると、体格や生活行動の自立や精神面等において発達課題が大きく異なっていることを実感しました。成長発達途中にある園児にとって、私たちがそれぞれの発達段階や個性を理解しその児に適した成長を促す介入を行うことで健やかな成長を支援していくことが重要であることを学びました。そして、一人一人の特徴を大切にしてみました。

看護は小児も対象であり、療養中の児であっても病気だけでなく健やかな成長を支えていく必要があります。第Ⅴ段階実習の小児の分野で、病院で過ごす受け持ち児の成長発達にも焦点をあてて実習に臨むことができたのは、小児看護学実習Ⅰの学びが活かされたのではないかと思います。



第Ⅴ段階実習  
3年 面屋 喜美

第Ⅴ段階実習では、個々の患者さんで症状の程度やセルフケアの自立度も異なるため、個々にあった看護援助を考えることが大切であり、そのためには患者さんの表情や言動、普段との行動の変化などを観察し、生活背景や性格など患者さん自身を知ることが必要となってくると実感しました。患者さんを知りたいと思うほど、患者さん自身も心を開き、たくさん話してくれるようになり、患者さんとの関係も築いていくことができました。

また、患者さんにとって家族は精神的な支えであり、家族も患者さんの症状の変化に一喜一憂するため、患者さんだけでなく家族も含めた援助というのが必要となってくると分かりました。

これから4年生になり、卒業して臨床に出た時に、この実習で得た知識や経験はきっと役に立つと思います。この実習で学んだことを今後の学生生活でも活かしていきたいと思っています。



大学院  
1年 内村恵里子

私は石川県立中央病院で勤務していましたが、自己啓発等休業制度を利用して休職し、大学院の博士前期課程の成人看護学分野・がん看護専門看護師教育課程で学んでいます。

私は、臨床経験の中で、がん終末期となり症状コントロールがうまくいかない状況でも最後までがんと闘い続けている患者さんや、余命告知をされていない患者さんのそばで悩んでいるご家族の苦悩に対して、自分の能力の限界を感じていたことが学びきっかけでした。

1年を振り返ると、臨床から一歩離れ“がん専門看護師に求められるもの”を学ぶ時、臨床経験を基に反射的に動いてしまう自分の体を引き留め、もう一度“現象”を捉え直してみる作業は、苦しい反面、看護の魅力を再確認できる機会でもありました。また先生や先輩、一緒に学んでいる仲間との出会いが支えとなり、課題に取り組むための一歩を踏み出す勇気につながっています。このような恵まれた環境で学ぶことのできる幸せに、職場や家族の応援に感謝しています。



### 日本看護図書館協会について

当館は、2009年4月～2011年4月の2年間、日本看護図書館協会の事務局を担当しております。日本赤十字豊田看護大学図書館長・石黒士雄氏を会長に、総務会、理事会、監事、各種委員長で構成する役員15名、常設委員21名が主体となって活動しております。2009年11月現在の会員数は、団体117館(室)、個人60名、賛助12機関となっております。

主な活動として、総会(年1回)、研究会・研修会(年2回)、機関紙「看護と情報」や会報の発行、会員実態調査、加盟館ハンドブックの作成・配布(年1回)、重複雑誌交換事業等です。特に、年1回実施される重複雑誌交換は、利用者の研究に必要な学術雑誌を収集することができるので、当館のような看護系大学図書館では大いに有効活用しております。当会活動等詳細については、こちらをご覧ください。⇒<http://www.soc.nii.ac.jp/kantokyo/>

## 地域ケア総合センターから

### 地域ケア総合センター長を辞するにあたって

今年度も卒業式の時期となり、本学は設立10周年を迎えます。私は2年間石川県立看護大学附属地域ケア総合センター長を経験する中で、本学の地域ケア総合センターが他県にない活発な活動を、教員全員のエネルギーによって継続できていることを実感しました。今年度も14人のケアセンター委員と専任事務職員が中心となり、石川県庁健康福祉部との共同研究3課題を含め30プログラムについて年間50日以上活動をを行い、約1,000人の参加者を得ました。さらに、独立行政法人国際協力機構北陸支部(JICA北陸)を通じた研修生受け入れ2事業(パラグアイ2名、タジキスタン8名)を例年通り実施し、教員が現地に出向くフォローアップもJICAの協力により行うことができました。

看護学には、医療施設のみならず人々の生活の場でひとり一人の健康問題に向き合い、人々とともに健康な生活を創っていく使命があります。地域ケア総合センターは地域と看護大学との交流の場を提供しており、全教職員に支えられた活動がよりよい看護・教育・研究に役立っています。おわりに、本学設立の理念に基づきこのセンター設置をされた石川県の心意気に感謝いたします。

地域ケア総合センター長 佐々木 順子

## 卒業生の内定状況

3月15日現在の就職・進学内定状況は、次のとおりとなっております。

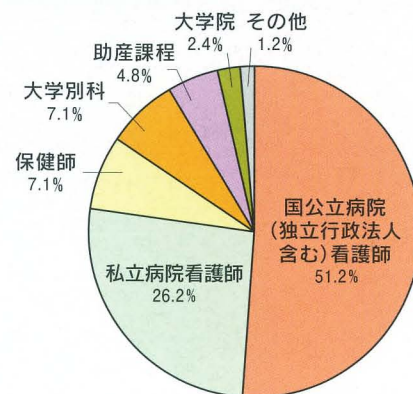
#### <県内就職>

石川県立中央病院  
金沢大学附属病院  
金沢社会保険病院  
金沢赤十字病院  
金沢医科大学病院  
金沢市立病院  
金沢医療センター  
公立松任石川中央病院  
公立能登総合病院 など

#### <県外就職>

湘南鎌倉総合病院  
東京慈恵医科大学附属病院  
北海道大学病院  
戸田中央総合病院  
静岡県立静岡がんセンター  
富山大学附属病院  
大阪府立病院機構  
県・市町保健師 など

### 第7期生内定状況(平成22年3月現在)



## キャンパススケジュール 2010年度

前	期	後
入学式	4月 5日(月)	授業開始
ガイダンス	4月 5日(月)～4月 7日(水)	履修登録受付
健康診断	4月 7日(水)	大学祭(看大祭)
授業開始	4月 8日(木)	冬季休業
履修登録受付	4月 7日(水)～4月16日(金)	大学入試センター試験準備日
開学記念日	5月29日(土)	補講・試験
開学十周年記念式典	5月30日(日)	春季休業
オープンキャンパス	7月17日(土)	卒業式・学位授与式
補講・試験	7月30日(金)～8月 6日(金)	
夏期休業	8月10日(火)～9月30日(木)	

10月 1日(金)	
10月 1日(金)～10月 8日(金)	
10月30日(土)～10月31日(日)	
12月25日(土)～1月 7日(金)	
1月14日(金)	
2月15日(火)～3月 1日(火)	
3月10日(木)～3月31日(木)	
3月予定	